

事例 64

タイトル：家に帰りたい思いから募る不安

・ < 事例の状況 >

Aさんは、週に3～4回の頻度で帰宅欲求があり、ふいに立ち上がったたり大声を出したりするなど、不安定になることがある。涙を流し、自分の名前、地名、家族の名前を言い、ここがどこなのか分からないと訴える。しばらく起きてもらうがすぐに「しんどい、横になりたい。」と言い、目が離せない状態となる。立ち上がって歩こうとするため、転倒のリスクが高い。また、不安が高まると、食事を拒否する。安心してもらうよう話をするが、数分後には忘れてしまうため、同じことの繰り返しである。

・ < この事例で課題と感じている点 >

週3～4回の頻度で現れる帰宅欲求があり、不安定な状態になると目が離せない。
難聴でありコミュニケーションを取ることが難しいこと。
一度安心しててもすぐに忘れてしまい同じことの繰り返しであり、不安な思いが消えない。

・ < キーワード >

家に帰りたい。ここがどこなのか分からない。不安。

・ < 事例概要 >

【年齢】 100歳代前半

【性別】 女性

【職歴】 専業主婦

【家族構成】 娘4人（うち長女、次女死去）、（四女キーパーソン） 夫は死去。

【認知機能】 HDS - R 1点

【要介護状態区分】 要介護4

【認知症高齢者の日常生活自立度】 a

【既往歴】 腹部大動脈瘤・神経因性膀胱・正式な診断名は不明だが、診断書に老人性認知症の記載あり

【現病】 正式な診断名は不明だが、診断書に老人性認知症の記載あり・上部消化管出血

【服用薬】 フランドルテープ・ウリトス・トリプタノール・タケブロン・マグミット

【コミュニケーション能力】 難聴がひどく、大きな声でなんとか聞こえるが、ほかの利用者との会話は、困難。

【性格・気質】 わがまま。几帳面。人当たりは良い。話し好き。

【ADL】 手を引き歩行可。寝返り、立ち上がり、座位保持、起き上がりはつかまれば可。
排泄・排便はトイレにて一部介助。食べこぼしはあるが食事は自立。

【障害老人自立度】 B2

【生きがい・趣味】 和裁・刺し子

【生活歴】 長女と二人暮らしであったが、その長女が急死する。その日に転倒し、右手第5指骨折裂傷にて入院（2カ月）。長女の死に大きなショックがあり、認知症が進行する。家の周りをシルバーカーで散歩する元気な方であった。入居時より、多動、昼夜逆転、夜間頻尿により不眠となっている。病院に受診するが薬の効果が見られず、夜間不安のため、常に誰かにかかわってほしいとの思いがあり、常に職員が対応している。長女の死は忘れていない。キーパーソンの四女が介護困難なため、施設入居となる。

【人間関係】 キーパーソンである四女が月に1回程度面会に来ている。帰りたと言ったら、「明日娘が来る」と言ってくれたらいいと言われている。

【本人の意向】 帰りたい。 横になりたい。 ここがどこか分からない。

【事例の発生場所】 特別養護老人ホーム